

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	10分ミーティングを毎日開催している。同時に理念の確認を各フロアで、日常的に行っている。	職員のシフトの交代の際に必ず行われる10分ミーティングでは、理念を念頭においた具体的な引継を行っています。また、新人には3か月6か月1年ときめ細かく理念を共有する研修を行っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り町内の行事に参加している。運動会クリスマス行事等にも参加している	町内会の運動会に参加しているが、利用者の活動レベルが年々低下し、参加出来る利用者は少なくなっています。クリスマスにはボランティアがホームまで来てくれる関係が出来ていて、共に楽しんでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	車椅子の貸出等を無料で提供している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的を実施し、出席者からの意見や情報を元に、家族会の考え方等参考にしている	町内会長、包括支援センター職員、介護相談員、家族、利用者の代表、職員等の出席を得て年4回の会議を開いていますが、町内会長などから積極的な意見も出され、運営改善に寄与しています。	運営推進会議はホームのよりよい運営のために外部の方の意見を聞く恰好の機会です。出席者の協力を得て年6回の開催に向けた努力を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の主催している研修、拘束虐待他、介護相談員さんとの情報交換会等に参加	介護相談員は平成14年から入っています。相談員の情報交換会や市の担当者の参加する研修会に参加している。市内の「グループホーム協議会」に参加し2か月に1回の会合で、様々な問題を協議しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束委員会のメンバーは、市の研修に参加し、そこで得た情報は全職員に回覧し、意識の向上にむける	拘束禁止は、事業所内の拘束委員会で検討しています。危険防止のための必要な注意・処置と身体拘束の境界について、職員間での意識を共有しています。利用者の立場を考えた対応に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	見たり聞いたりした時には必ず報告する義務があることを話している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、研修内容を回覧し、会議として持たないまでも、ミーティング等で話している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当職員が十分説明している。又機会あるごとに質問に関しては十分説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事あるごとに各職員に報告し、検討している	介護相談員を通じて報告されたり、家族の来訪時に聞いています。事業所から家族には書簡等を送って意見を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニティーボックスを設置している。ミニ会議においても意見収集している	昨年、外注業務を半減させ、職員の負担がそれだけ増加する事になった時、リーダー会議を中心に職員の意見を良く聴き、理解を求めて、職員の意識が改革され、問題の解決にも反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所が特にアピールしている点でもあり、日頃から努めている。有休等もとりにくい状況にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修を始めとし各研修についても、全ての人が受けられるよう配慮している。3カ月、半年 1年と各項目に到達度を記入してもらい、自覚を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市GH連絡協議会の研修及び、施設の見学等も実施し意見交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日のように訪室し、可能な限り要望に応えるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時間を作り対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のレベルに応じ、他機関等の情報も収集し紹介等している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個別の対応に重点を置き実施している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	努力はしているが、一部の家族に於いては、本人と家族の関係がうまくいかず、支えるのに困難なケースもある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得ながら友人・知人の面会を設けている	元気な方は美容院、床屋、クリーニング屋などへ出かけています。「いきいきサロン」へ出かけた方もいます。友人が訪ねてくる方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニットにとらわれず、気の合う利用者同志での行事の参加		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、支援に努めている。各関係機関への問合せ等		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族も含めた話し合いを、来訪時に行っている	自分の意向を訴えられる方は、家族の来訪時にも家族も含めた話し合いで意向の把握をしています。意向の把握の困難な方はセンター方式を利用し日常の態度や表情を通して理解するようにしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ミニミーティングによりサービスの向上に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日記録し、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書の中に評価項目を設け、全職員がサービス内容の共有を図り実施に向けている	利用者本人の意見も聞くほか、それが不十分な場合は家族が来訪した時に、家族の昔話等からも情報を収集しています。課題を把握し、それをスタッフミーティングで検討し内容を共有し介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録している個人ファイルは、どの職員が記録しても良い事になっており、情報の共有化が出来る		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との話し合いやご本人の意向も取り入れ、個別のサービスを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に地域の協議会や消防、教育機関等と協力している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診があり主治医の違う方については、その都度家族と共に、主治医のところへ受診している	当ホームの場合、協力医療機関が同時に主治医になっている方が3分の2くらいいます。残りの方は家族の協力により、自分のかかりつけ医に通っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師が在職している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の面会は必ず行っている。看護師も病院側と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの同意書を作成し、医者や家族、ご本人及びスタッフ同伴で話し合い、支援に取り組んでいる	終末期ケアについては、契約時に説明をしています。そして重度化した段階で、家族等と話し合いを行い、同意書を作成しています。今年度も3名の看取りが行われています。チームのスタッフや家族等も本人の自室で看取りが出来たことを感謝しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	蘇生法の訓練を消防士によって研修している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の連絡協議会に所属し、地域との協力体制も出来、住民に対し協力の申し入れをしている	地域の関係各位と連携をとり、災害の発生時には利用者の保護を依頼しています。又、当ホームからは、備蓄食糧を利用した炊き出しをする等の相互協力の関係が出来ています。	災害時は職員の誘導だけでは限界も考えられます。地域からも協力の声もあることから地域住民を含んだ災害時の避難・救助の協力体制の構築を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇マニュアルにてその人に合った言葉使い(方言)等を用いて対応している	全ての職員が利用者の人格の尊厳と誇りを尊重するよう日頃の業務の中で常に意識をしています。対応に苦慮する利用者に対しても、本人の尊厳を無視した対応にならないよう10分ミーティングなどで意識の徹底をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉かけは常に行っているものの、重度の方の言葉の理解が困難な方には、スキップ等で対応している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	必ず意向を優先し可能な限り要望に応えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と話し合い出来るだけ実現できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人の好きな物の提供や、日々会話の中で食べ物のお話をし、その方の嗜好を知る又片づけの出来る方には、お願いしている	日常の食事は栄養士が担当して利用者の嗜好に合った食事を提供しています。パンも週2回程度提供するなど、利用者の好みに対応しています。又、ユニット毎に好物のおやつを作り、手作りの味を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成し、記入している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき。個人に合わせた対応をしている(現状維持及び、日中のみ綿パンツで過ごす)	個々の自立に向けた排泄を支援しています。一人一人の力や排泄のパターン・習慣を把握し、トイレでの排泄やポータブルトイレの使用等、個人に合わせた排泄の自立に向けた支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢による機能の低下等考え、栄養士との献立の検討や個別の活動(散歩)で支援する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	出来るだけ要望に応えたいが、現実的には個別の対応は各フロアでは行えない為、(風呂場が地下)要望が多い場合は使用困難。数人の場合のみ支援している	風呂場が1か所(地下)である為、基本的には週3回、各フロアごとの入浴で対応しています。個々の希望には、数人まとまった場合に支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御茶等の回数を増やしたり、余暇、仕事、製作等を通してリラックスできるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が管理し、支持通りの服薬が出来ている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来るもの(縫物)は見守りの中でして頂き、重度の方には、音楽や歌、傾聴で気分転換の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩以外の外出として、金融機関や喫茶店等に出かけられるよう支援している	介護度の進行により出かけられなくなる方が増加している現状があります。反面一日に何回も散歩をしている利用者もいます。金融機関、喫茶店、クリーニング店、パン屋に行く方も居る等、日常的な外出は、その時の希望により、個別対応をしています。	日常ユニットから出ない利用者に対して体調の良い時には、戸外に出られる様な支援を期待します。家族や地域の人々と協力しながら、普段は、行けない場所でも出かけられるような支援ができることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理はホームで行っているものの、ご本人の意向に沿って買い物をしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方には支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除は欠かさず行い、生活し易いように整理整頓、道具の配置など利用者と一緒に考え支援する	コンクリートの壁、鉄製のドアといった部分をフローアごとの塗装の工夫により明るい雰囲気を出しています。リビングには、花、絵画、置物等により落ち着いた環境が作られています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	陽だまりの所に椅子を置く等し、くつろげるよう支援する		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、好みのものや、希望のものは置くよう配慮している	居室は和室ですが、車いすに対応するときは硬質のマットを敷く等の配慮をしています。本人の好みにより布団かベットが利用できます。室内は清潔で落ち着いた雰囲気が維持され、仏壇や使い慣れたものが置かれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や、窓やカーテン等の開け閉め、手すりの利用等により、自力歩行を促す支援、階段昇降の利用により、筋力維持に努める		